

平成30年度

## ワークライフバランス職場表彰（概要）

## 趣旨

国家公務員の働き方改革によるワークライフバランスを推進するため、個々の職場の実情に合った業務の効率化や職場環境の改善について、創意工夫をいかした特に優れた活動に取り組んだ部署等を表彰

## 選考結果

各府省等から推薦のあった89件（府省内選考を含めると244件）の取組の中から、有識者の選考委員会の意見を聴いて決定

国家公務員制度担当大臣表彰（職場環境改善を中心とする取組）	6件	（本省2件、地方4件）
内閣人事局長表彰（業務改善を中心とする取組）	6件	（本省3件、地方3件）

## ※ 選考委員会委員

佐藤 博樹 中央大学大学院戦略経営研究科教授  
 石原 直子 株式会社リクルートホールディングスリクルートワークス研究所人事研究センター長  
 松原 光代 PwCコンサルティング 合同会社主任研究員

## 表彰式

平成31年3月18日（月）に首相官邸にて表彰式を開催。各職場の代表者に対し表彰状を授与

（参考）・本表彰は、「国家公務員の女性活躍とワークライフバランス推進のための取組指針」（平成26年10月17日女性職員活躍・ワークライフバランス推進協議会決定）に基づき、平成27年度から実施。

【平成27年度】	大臣表彰	5件	／局長表彰	5件		計10件
【平成28年度】	大臣表彰	6件	／局長表彰	6件	／特別賞	2件 計14件
【平成29年度】	大臣表彰	6件	／局長表彰	6件		計12件

# 平成30年度ワークライフバランス職場表彰 国家公務員制度担当大臣 表彰

職場環境改善を中心とした取組

## ポジ活 AWARD 2018

**概要**

2018年に取り組んだ「ポジ活」（自分の生活・仕事をより良くするために起こすポジティブな行動）のうち、特に優れた取組を行ったもの（個人、グループ）に表彰。

＜賞の理由＞  
 ・ベストの「ポジ活」1名/団体（最もポジティブな行動を起こした活動に贈る賞）  
 ・これからの賞  
 ・2018年10月1日現在、最も多くの「ポジ活」を行った個人・団体のうち、最も優れた取組を行ったもの（個人、グループ）に贈る賞）

○審査方法：ポータルサイトの投票（一人3票）⇒上位5者によるプレゼン⇒審判員による決定

○応募資格：応募者のうち1名はポジ活メンバーであること以外は何れも個人でもグループでも、一人何件でも応募可能。

○審査の着眼点：ポジティブ（前向き）、チャレンジング、周囲からの感謝度、ハッピー度

### ■内閣府 働き方改革有志プロジェクトチーム、大臣官房人事課

「ポジ活」（改革意欲のある有志（52名）によるポジティブな活動）を展開。各職場における働き方改革の取組の定例共有会や、有識者勉強会、働き方改革失敗例の検証会、定時退庁を目指す会、英語勉強会等、多様な勉強会を開催。特に優れた取組を事務次官が表彰したほか、職員向け講演会とのコラボレーションなど幅広く活動

### 職場環境改善グループワークのまとめ

1 職場環境改善の現状	14 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	18 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。
24 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	28 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	32 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。
36 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	40 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	44 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。
48 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	52 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	56 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。
60 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	64 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	68 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。
72 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	76 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	80 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。
84 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	88 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	92 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。
96 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	100 働き方改革の推進、コミュニケーションの強化、継続してある。	

### メンタルヘルスマネジメント実施計画

メンタルヘルスマネジメント実施計画の概要と、メンタルヘルスマネジメントの推進状況を示すグラフ。

### ■法務省 宮川医療少年院

メンタルヘルスマネジメントの手法を取り入れた職場環境改善策を策定。セルフケア研修やグループワークにより、ストレス軽減やコミュニケーションのとれた風通しの良い職場になったと多くの職員が評価

## 2. メールを自動で作成してみよう！

Excelで参照設定  
 メールを作成  
 シートの表をメールに反映

2. エクセルVBAから、outlookメールを作成

```

Sub sendmail_sample()
Dim outlookObj As Outlook.Application
Dim mailItemObj As Outlook.MailItem

Set outlookObj = New Outlook.Application
Set mailItemObj = outlookObj.CreateItem(olMailItem)
mailItemObj.To = "〇〇〇@fsg.jp"
mailItemObj.CC = "〇〇〇@fsg.jp"
mailItemObj.BCC = "〇〇〇@fsg.jp"
mailItemObj.Subject = "実装中"
mailItemObj.Body = "本文" & vbCrLf & vbCrLf & "credit"
mailItemObj.Display
End Sub
    
```

One Step is a Step Forward

### ■金融庁 総合政策局総合政策課

特に若手が日々追われている単純作業を効率化するため、実例を基に、Excel/Outlookマクロ活用勉強会を開催（6回、延べ40人以上参加）。会議の日程調整、作業依頼の回収・統合等の事務負担の軽減や年次休暇取得増などWLBも改善

### Work-Life Balance declaration 2018

各部署の代表者が宣言した内容を掲載したポスター。宣言内容は、ワークライフバランスの推進、業務効率化、人材育成など。

### ■財務省 東海財務局

全幹部と課室単位でのワークライフバランス宣言を実施。幹部の顔写真付きでイントラネットやメールで共有するとともに、効果的な取組を局内に横展開し、次年度の目標設定に活用

### ■法務省 榛名女子学園

6月・11月を「シンデレラフェスタ」とし、「自己分析表による業務の見える化」や残業する場合は「シンデレラチケット」（30分1枚、1人60枚）の事前提出制による超過勤務縮減

### 提案のしおり

平成30年11月作成

発案型、紹介型、改善紹介メール

九州財務局

提出してからの流れ

### ■財務省 九州財務局

「ワークライフシナジー」を掲げ、局内全体で、①働き方改革（トップによる研修会・懇談会等）、②業務改善（職員からの提案制度の導入）、③女性活躍（ワークショップの開催等）に取り組み、相乗的な組織活性化

※Excel/Outlookマクロ：Excel及びOutlookの作業を自動化するプログラム

# 平成30年度ワークライフバランス職場表彰 内閣人事局長 表彰

業務改善を中心とした取組



## ■金融庁 総合政策局リスク分析総括課情報・分析室

- ・当庁の業務の高度化実現に向けてRPA<sup>※</sup>を導入
- ・当室が管理部門となり「RPAに関する実施要領」を整備。実施要領に基づき、庁内募集した案件にプライオリティ付けをしてRPA化対象業務を選定
- ・RPAにより①定型業務の代替(時間の創出)、②業務フローの見直し、③成果物の品質向上を達成
- ・他府省等にも事例共有

## ■消費者庁 消費者行政新未来創造オフィス担当室

徳島オフィスを働き方改革の拠点として位置付け、ペーパーレス化やフリーアドレス、テレワークを推進。アンケートもを行い、PDCAサイクルにより改善、超過勤務縮減

## ■文部科学省 文化庁

京都移転を見据え、東京-京都間でコミュニケーションロスを起こさないよう、ペーパーレスでのテレビ会議等を活用。付随的に出張旅費・移動時間を効率化。また、組織改編に伴う庁内レイアウト変更にあたっては、各課長が不要文書の処分目標を立てて大幅な削減に取り組み、執務環境を改善



## ■経済産業省 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部電力基盤整備課

## ■国土交通省 中国地方整備局

## ■防衛省 陸上自衛隊第1師団司令部

「課長のトリセツ」作成による管理職と課員とのコミュニケーション活性化や、課内打合せのペーパーレス化、審議会へのSkype参加、承認業務の届出化、「業務ダイエット計画」の人事評価への反映などによる業務効率化

RPA<sup>※</sup>を導入し、内部管理業務プロセスを見直すとともに、データ入力作業を自動化。RPAで作成した動作シナリオについて他の地方整備局との共有化を検討

「勤務実態の把握」「意識の改革」「業務要領の改善」を重視項目とするワークライフバランス推進強化施策を策定。登退庁時間をバーコードで記録する簡易な勤務実態把握システムを開発。過度な業務集中を減らし、業務要領の見直し等に活用

※RPA (Robotic Process Automation) : 人間と同じようにPC上の操作を行うことができるソフトウェア